第4回大田区選抜大会レポート

2024年6月22日(土)に森ヶ崎グランドで「第4回大田区選抜研修大会」を開催しました。今回は大会の様子と共に、大田区の技術環境と大田区選抜の選考方法についてレポートします。

大田区は、地域との有効な関係構築を目指しています。したがって、「大田区選抜大会」には大田区の近隣区が参加しています。また、地域を重複する8ブロックトレセン(対象は江東区、中央区、港区、品川区、大田区)や5ブロックトレセン(対象は世田谷区のみ)も参加しています。さらに、今回は初参加として川崎フロンターレU11が参加しました。川崎市は大田区に隣接しています。つまり、近隣地域との関係を構築することにより「大田区選抜大会」が開催できています。そして、大田区に所属する選手に切磋琢磨した試合環境の提供が可能となっています。「大田区選抜大会」が意味と価値のある大会となることを目指しています。







大田区選抜のメンバーは、「強化トレーニング」(旧大田区トレセン、以下:強化)メンバーより 32 名(A 16 名・B 16 名)を選出しました。強化は 1 月の全体セレクションにより決定しています。また、各チームから強化への推薦選手がいる場合は、「強化推薦枠」として「育成トレーニング」(以下:育成)へ選手の推薦が随時可能となっています。つまり、大田区選抜でプレーするチャンスは全ての選手にあるということです。







また、原則として大田区ではトレセン重複は行いません。なぜなら、トレセン参加による個人とチームの負担を軽減するためです。つまり、東京都トレセン(第一地域含む)や8ブロックトレセンの選手は強化の対象外としています。しかしながら、「トーマスカップ東京都選抜少年サッカー大会」(6月)以降は第8ブロックトレセンの選手も強化へ招集しています。なぜなら、トレセンや選抜チームの選考の狭間で選抜大会に出られない選手を防ぐためです。







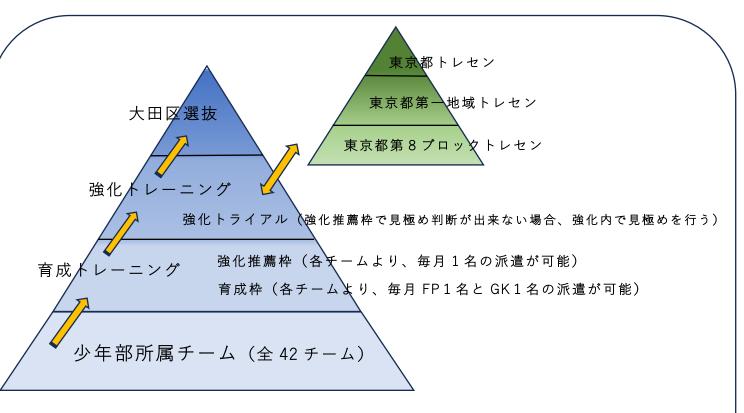
こうした技術委員会による選手の育成システムは、育成と強化という2つのカテゴリーを用いることで切磋琢磨した環境を整えています。なぜなら、6月の育成トレーニングには40名(内強化推薦枠は6名)の選手が各チームより派遣されています。また、強化は50名が登録されています。ようするに、育成システムは、各チームの理解を得ると共に多くの選手にトレセンや選抜という機会の提供に繋がっていると言えます。

最後に、7月6日(土)より森ヶ崎グランドで始まる「若葉台カップ 2024」には、大田区選抜A・Bより 20 名を選考しました。7回目の優勝を目指して大会に挑みます。引き続き、各チームの大田区サッカー協会少年部活動へのご理解とご協力をお願い致します。









大田区サッカー協会 少年部技術環境における概念図